

守備力向上！！ゴール付近への侵入を防げ！！ ～自分やチームの弱点はなんだろうか？～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 思考力・判断力・表現力 (学校) 主体性, コミュニケーション能力

1 日 時 令和6年9月25日(水) 13:30～14:20

2 学 年 第2学年1組 (男子14名 女子13名 合計27名)

3 場 所 体育館

4 単元について

○ 単元観

本単元「バスケットボール」は学習指導要領保健体育編 領域【E 球技】を基に設定されており、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる内容である。

本単元は、球技の中でも「ゴール型」として位置づけられる。ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手のチームより多くの得点を競い合う競技である。

小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。中学校第1学年及び第2学年では、これらの学習を受けて、基本的なボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようになることが求められる。また、バスケットボールの学習に積極的に取り組み、フェアなプレイを守ろうとしたり、作戦などについての話し合いに参加しようとしたりする意欲を持たせることも必要である。さらに健康や安全に気を配るとともに、技術の使い方や練習の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫する活動が設定できる単元である。

○ 生徒観

本学級の生徒は、仲間とともに協力し、明るく前向きに学習に取り組むことができる。保健体育の授業においても男女分け隔てなく学習に取り組むことができている。

体育の授業に関する事前アンケート調査を行ったところ以下ようになった。

表1

体育の授業は好きですか？	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
	56.0%	24.0%	20.0%	0.0%
○好きな理由	- 達成感を味わうことができるから - 体を動かすことは楽しいから。			
●嫌いな理由	- 他人に迷惑をかけてしまうと思い、苦手意識があるから。 - 体を動かすのが苦手だから			

表2

バスケットボールの授業は好きですか？	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
	56.0%	20.0%	24.0%	0.0%
○好きな理由	- シュートが入ったときに嬉しいから - チームでパスが決まると気持ちいいから。			
●嫌いな理由	- シュートやパスが苦手だから - ボールを扱うのが難しいから。			

表1、表2の結果から、70～80%が肯定的に回答しており、体育が好きな生徒が多く、バスケットボールが好きな生徒も多いことが分かる。一方でボール操作の習得が不十分であることや、団体競技で迷惑をかけてしまうのではないかと思うことで苦手意識を持ち、バスケットボールが嫌いな生徒もいることが分かる。(24.0%)

表3

バスケットボールで課題だと思うことはなんですか	シュート	ドリブル	パス	ディフェンス
	40.0%	36.0%	8.0%	16.0%

表3の結果からシュートやドリブルなどオフェンスについて課題に感じている。しかし1年生のバスケットボールの授業時、マークする相手を追いかけてディフェンスをしている実態があった。(自分のゴールは意識せずディフェンスしたり、相手が抜いてくるコースにまったく入れていなかったり、うまくディフェンスできていない。)自分自身では一生懸命ディフェンスをしているので課題だと感じていないと考えられる。

表4

	肯定的回答	否定的回答
体育の授業では自分や仲間の課題を発見することができる	80.0%	20.0%
体育の授業では、自分の考えたことを仲間に伝えることができる。	64.0%	36.0%

表4の結果から、課題を発見することはできるが、そのことを仲間に伝えることが苦手であるということが分かる。否定的な回答の理由として、「間違っただけを言ってしまったとき恥ずかしいから」や、「自分が言うことに自信がないから。」などがある。以上のことから正しい知識を持って、課題を正確に発見することや、伝え方を指導する必要があることが分かる。

表5

	グループワーク	クロームブックの活用	図解体育の活用
技能向上に向けて効果的だと思うもの	80.0%	16.0%	4.0%

表5の結果から生徒は特に、グループワークやクロームブックを活用した授業が効果的であると感じていることが分かる。

○ 指導観

指導にあたっては、バスケットボールを通して、オフェンスやディフェンスで意図的な動きのあるゲームをすることの楽しさを味わわせるために基本的な技能(ボール操作、ボールを持たない時の動き)の習得をさせたい。基本的な技能の習得のみならず、知識の理解を基に技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習させたい。また、バスケットボールはチーム競技であるが、個人の動きがチームに大きく関わる。グループ活動を通して、チームでの成果と課題を考え、自分がチームのためにどんなことが必要か考えさせたい。仲間と教え合ったり、助け合ったりして仲間とともに活動することの楽しさを味わわせたい。そのため、以下の2つのことに取り組んでいく。

1つ目は、オフェンスやディフェンスで意図的な動きができるようになるために、ボール操作だけでなく、ボールを持たない時の動きのポイントをワークシートに記述させ、技能の具体的な知識も習得させる。生徒の実態としてオフェンスに対して課題意識を持っているが、ディフェンスに目を向けさせたい。ディフェンスの技能を高めることで、どのように攻めていくか、相手のディフェンスを崩すためにどうすべきかなど、オフェンスに対してより深い学びをさせたい。

2つ目は、クロームブックを活用し、グループワークで分析し、基本的な技能の習得につなげる。自分自身の動きをカメラで撮り、仲間と分析することで、個人で解決できなかった課題をグループで解決させていきたい。その際に、グループワークでの話し合い活動(自分の動きを分析する活動)を主体的で深い学びを引き出すためにポイントとなる視点を絞って提示する。またお手本の動きと失敗の動きを比較させ、正しい動きのポイントを意識させたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 （自己を認識する力、 自分の人生を選択する力）	コミュニケーション能力 （表現する力）		
	レベル 1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。
	レベル 2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル 3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル 4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、（大人の力も借りながら）自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 単元目標

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や技術の名称、行い方などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防ができるようにする。 【知識・技能】

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考・判断・表現】

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加しようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ることができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

7 評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
○知識 ①バスケットボールには、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②バスケットボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをしている。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出している。 ③パスを受けるために、ゴール前に空いている場所に動いている。 ④ボールを持っている相手をマークしている。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、自他の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ③練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

8 指導計画（全10時間）

教科・領域の本質的な問い

バスケットボールの楽しさとはなんだろうか。

時間	学習課題 ねらい 指導内容	重点	記録	生徒の行動・思考	評価 〔評価方法〕
1	学習課題：バスケットボールの授業の流れをつかもう。 ねらい：バスケットボールの授業の見通しを持つことができる。 バスケットボールの流れやルール，基本用語，評価を理解させ，単元を貫く問いの設定を行う。単元を貫く問いの設定により，学習の見通しをもたせる。	知	○	・バスケットボールの流れやルール，基本用語，評価について，理解する。 ・試しのゲームをする。	バスケットボールには、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。

					[ワークシート]
単元を貫く問い バスケットボールの試合レベルを上げよう。 ～オフェンスとディフェンスでよい動きをするためにどんなことが必要だろうか～					
2 3	学習課題：パスやドリブル、シュートのポイントはなんだろうか。 ねらい：ボール操作（パス、ドリブルシュート）の動きを身に付けることができる。 ドリブル、パス、シュートのポイントを理解させ、基本的なボール操作の動きを身に付けさせる。	知技	○	・ドリブル、パス、シュートのポイントを理解する。 ・セットシュートの練習をする。 ・レイアップシュートの練習をする。 ・トライアングルパス・ツーメン・スリーメンの練習をする。 ・1対1の練習をする。ドリブルからのシュート ・1対1の練習を動画に撮っておく。	バスケットボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをしている。〔行動観察〕 得点しやすい空間にいる味方にパスを出している。〔行動観察〕
4	学習課題：パスを味方から受けるためにどのように動いたら良いだろうか。 ねらい：ゴールの前の空間でボールを受けて攻撃することができる。 パスを受けるための動きを理解させる。ボールを保持している時は「シュート→ドリブル→パス」の順で動きを選択していくことを理解させる。ボールマンの攻めを優先させるためにスペースを広くとる動きを理解させる。ゴール前にスペースができた時に走りこむにはどうすれば	思技	○	・ボールを持った時の動きの選択を理解する。 ・ボールを持っていない場面の動きを理解する。 ・数的優位な場面でのオフェンス練習をする。2対1，3対2の練習をする。 ・3対3での練習をする。 ・3対3の練習を動画に撮っておく。	仲間と協力する場面で分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 〔ワークシート〕 得点しやすい空間にいる味方にパスを出している。

	いいか考えさせる。				パスを受けるために、ゴール前に空いている場所に動いている。
5	本時 学習課題： 守備力向上！！ゴール付近への侵入を防げ！！～自分やチームの弱点はなんだろうか？～ ねらい：自分やチームの課題を分析して、マンツーマンディフェンスができる。 ボールマンに対するディフェンスのポイントを理解させる。自分やチームの課題を分析させ、ディフェンスを練習させる。	思	○	・マンツーマンディフェンスのポイントを理解する。 ・前時までに撮影した1対1の攻防をグループで分析する。 ・ディフェンスでのポイントを意識しながら練習をする。	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、自他の課題や出来映えを伝えている。〔行動観察・ワークシート〕
6	学習課題： 守備力向上！！ゴール付近への侵入を防げ！！～自分やチームの弱点はなんだろうか？～ ねらい： 自分やチームの課題を分析して、マンツーマンディフェンスができる。 ボールマン以外の時のディフェンスのポイントを理解させる。自分やチームの課題を分析させ、ディフェンスを練習させる。	思技	○	・マンツーマンディフェンスのポイントを理解する。 ・前時までに撮影した3対3の攻防をグループで分析する。 ・ディフェンスでのポイントを意識しながら練習をする。	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、自他の課題や出来映えを伝えている。〔行動観察・ワークシート〕 ボールを持っている相手をマークしている。
7	学習課題：日比崎杯に向けて準備をしよう！ ねらい：試合に使えるオフenseやディフェンスをすることができる。 これまでのチームの課題を分析し、チームにあった練習を選び、次の時間から始まるゲームに向けた練習をさせる。	態		・これまでの練習から選択し、オフenseやディフェンスの練習をする。	作戦などについての話し合いに参加しようとしている。練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。〔行動観察〕

8 9	学習課題： 日比崎杯開幕！～優勝をめざせ～ ねらい： 今まで練習したことを活かしてゲームで得点することができる。 これまでの練習の成果を出すためにゲームをさせる。ゲーム後にはチームで成果と課題を出させてこれからの取り組みを考えさせる。	態		・チームでの練習をする。 ・5対5のゲームをする。 ・チームの成果と課題を考える。	球技の学習に積極的に取り組もうとしている。〔行動観察〕
10	学習課題：日比崎杯最終戦～自分達の取り組んだ成果を発揮しよう～ ねらい： ボール操作や空間に走りこむ動きによってゴール前で攻防することができる。 ゲームを行い、単元の振り返りをさせる。	態		・5対5のゲームをする。 ・自分やチームでできるようになったことなど、単元の振り返りをする。	球技の学習に積極的に取り組もうとしている。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○前時までに撮影したディフェンスの動画をグループで分析する活動を通して、自分やチームの課題を見つけ、マンツーマンディフェンスができるようになる。

(2) 本時の評価規準と生徒記述の例

- ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、自他の課題や出来映えを伝えている。

【思考・判断・表現】

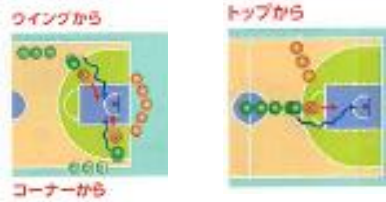
(3) 準備物

クロームブック，ホワイトボード

(4) 本時の流れ（5時間目／全10時間）

過程	□学習活動	指導上の留意事項（○） ・予想される生徒の反応（・）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 【評価方法】
	1 課題設定 【10分】		

導入	☐あいさつ・呼名を行う。 ☐準備運動・補助運動を行う。 (スライドステップ・クロスステップ) ☐学習課題とルーブリックの確認をする。	○返事をした際に生徒の健康状態を観察する。	
学習課題 守備力向上！！ゴール付近への侵入を防げ！！～自分やチームの弱点はなんだろうか？～			
ねらい 自分やチームの課題を分析して、マンツーマンディフェンスができるようになる。			
2 課題の探究。【10分】			
展開・前半	☐良いディフェンス，悪いディフェンスの動画を見てポイントを見つける。 教師 2つの動画を見てどちらがよいディフェンスだろうか。また良いディフェンスのポイントはなんだろうか。 生徒 ・良いディフェンスはしっかり手が上がっているな ・悪いディフェンスは抜かれて追いかけているな ☐各グループで前時までの自分たちディフェンスの動画をみる。グループ内で改善するところを話し合う。 教師 自分たちのディフェンスの弱点はなんだろうか。改善点はなんだろうか。 生徒 ・ディフェンスする時に手が上がっていないよ ・ボールとゴールを結んだ線上に立てていないよ	○良いディフェンスのポイントを探しやすくするために，「手」と「立ち位置」に着目するように伝える。 ○ワークシートにポイントをまとめさせ，練習で意識できるようにさせる。 ○守備時の改善する時の視点を伝える。 視点 ボールマンに対してのディフェンス ○片手はボールに対して出す。もう一方の手は正面へのパスを阻止するために出しているか。 ○ボールを持つ相手に対するディフェンスはボールとゴールを結んだ線上に立っているか。	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，自他の課題や出来映えを伝えている。 〔思考・判断・表現〕 ★コミュニケーション能力 【行動観察】
3 課題の解決 【20分】			
展開・後半	☐動画を見て改善することを意識してディフェンス時の練習を行う。	○ボールマンに対してのディフェンス練習を提示する。 ○1チーム6～7人。 ○ウイング・コーナー・トップそれぞれ6分ずつ練習をさせる。 ○オフェンス・ディフェンスを交互でさせる。	

		 ○チーム内で改善するポイントを意識して練習に取り組むように声かけする。 ○リーダーが中心となり話を回す。話合い2分間。	
4 片付け・振り返り【10分】			
片付け・まとめ	□片付けを行う。	○グループで協力し、安全に気をつけさせて片付けをするように指示をする。	
	□振り返りを書く。 練習を振り返り、改善したこと、工夫したことを記入し、今後の自分やチームでの取り組みを書く。		提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、自他の課題や出来映えを伝えている。 〔思考・判断・表現〕 ★コミュニケーション能力 【ワークシート】
予測される生徒の考え A評価 ディフェンスの時に、手を上げられていなかった。パスやシュートをされないようにしっかりと手を上げて、ディフェンスをしていきたい。 B評価 ディフェンスの時に、手を上げられていなかった。次からはしっかりと手を上げて、ディフェンスをしていきたい。			
生徒の振り返りの例 ・自分のディフェンスがあまりできていないことがわかった。次からはしっかりと手を上げてディフェンスをしていきたい。			

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	評価規準
A（理想的）	自分やチームの課題を発見し、マンツーマンディフェンスのポイントの具体的な知識を意識しながら練習することができる。
B（おおむね満足できる）	自分やチームの課題を発見し、マンツーマンディフェンスの練習することができる。
C（努力を要する）	自分やチームの課題を発見し、マンツーマンディフェンスの練習することができない。

(5) 板書計画

単元名 バスケットボール

ねらい 自分やチームの課題を分析して、ディフェンスができるようになる。

学習課題 守備力向上！！ゴール付近への侵入を防げ！！～自分やチームの弱点はなんだろうか？

授業の流れ

準備運動・補強

手

- ・スライドステップ
- ・クロスステップ

ディフェンスのポイント
(ボールマンに対してのディフェンス)

手

- ・片手はボールに対して出す。
- ・片手は正面へのパスに対して出す

立ち位置

- ・(ボール) と (ゴール) を結んだ線上に立っているか。



ディフェンス練習

★ウイング・コーナー・トップ 6分ずつ

★チームの振り返り 2分

